

## 今年度の振り返りと次年度に期待すること



生徒会顧問

竹内 明子

今年度の目指す学校像は、「生徒一人一人が互いに協力し高め合える学校」でした。そしてそれを実現するための柱となる活動を選挙の公約をもとに決めました。

一つ目は「あいさつ運動」です。あいさつからコミュニケーションを始め、生徒同士のつながりを深めていくことをねらいとしました。どれほど効果があったかを測るのは難しいですが、少なくとも常任委員は全校生徒を身近に感じることができ、様々な活動の基盤になっていたように思います。また、応援委員によるあいさつ運動が年間通じて行われていたことも活気あふれる学校づくりにつながっていました。応援委員と常任委員はそれぞれで活動していましたが、委員会同士の横の連携があっても良かったと思います。例えば、全校生徒委員会を開き、複数の委員会の合同実施の検討や委員会間の意見調整の場を設ける、学校の課題に基づく委員会活動を常任委員会から提案するなどできたら、より活気ある活動ができたかもしれません。

二つ目は「レクリエーション」です。生徒同士の仲を深め協力し合える関係を作ることからねらいとしました。新入生歓迎会では、全校生徒の協力のおかげでジャンケン列車や仲間集めゲームなどを行うことができました。今年度の生徒朝会では、スローガンの発表、東風祭の抽選会、軍団長による決意発表、爽増キャンペーンのPR、応援練習、生徒会選挙立候補者のPRなどを行いました。本当はレクリエーションをやりたい時がありましたが、時間が取れずに実現できませんでした。しかし、体育委

員による球技大会や東風祭生徒会企画の絵画制作を通して、クラス、学年、全校での交流ができました。常任委員会ができることは限られている、だからこそ他の委員会と連携・協力していくことが必要であると感じました。

三つ目は「アンケート」です。スローガンを決めるアンケートは実施しましたが、学校の課題を明らかにしたり、活動によってどれだけ理想像に近づけたかを評価したりするアンケートは実施できませんでした。全校生徒のがんばりをアンケートにより目に見える形にできていたら、「お互いに高め合って」いることをより実感できたと思います。

また、今年度の爽増キャンペーンでは、生徒朝会で各委員会がPRを行いました。具体的な活動を実演する、音楽を流す、調査結果を示して全校生徒の意識を高める、模造紙に字を書いて掲げる、委員全員がステージに上がる、歌を歌うなどのPDがなされ、どの委員会も全校生徒に印象付けられたと思います。また、できるだけ多くの委員が発表に関わったことで一人一人の委員の意識も高まり、自覚をもって活動ができたと思います。他にも、新しい取組にチャレンジすることができました。生徒会歌の復活です。年度当初、常任委員会の中で生徒会歌を歌いたいという意見が出たのですが、校長先生の励ましをきっかけに実現に向けて動き出すことができました。応援委員や合唱部のみなさんの御協力にも感謝しています。爽増キャンペーンの取組で常任委員がステージ上で生徒会歌を歌いました。私は、爽やかに歌う様子がとてもいいなあ、全校のみんなでこんな風に歌えたらもっといいなあ、と思いました。爽やかに歌えたのは、自分たちで歌うことを決め、自分たちで練習して本番を迎えたからだと思います。自分たちで活動を作り上げるのはとても楽しいことです。来年度の生徒会活動がより一層盛り上がることを期待しています。